

八戸市立市民病院 八戸地域整形外科専門研修プログラム (案)

目次

1. 整形外科専門研修の理念と使命
2. 八戸地域整形外科専門研修の目標
3. 八戸地域整形外科専門研修プログラムの特徴
4. 研修方法
 - 4.1 基本方針
 - 4.2 研修計画
 - ・ 専門知識の習得計画
 - ・ 専門技能の習得計画
 - ・ 経験目標（経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等）
 - ・ プログラム全体と連携施設におけるカンファレンス
 - ・ リサーチマインドの養成計画
 - ・ 学術活動における研修計画
 - ・ コアコンピテンシーの研修計画
 - ・ 地域医療に関する研修計画
 - ・ サブスペシャリティ領域との連続性について
 - ・ 臨床現場を離れた学習
 - ・ 自己学習
 - 4.3 研修およびプログラムの評価計画
 - ・ 専攻医の評価時期と方法
 - ・ 専門研修プログラム管理委員会の運用計画
 - ・ プログラムとして **FD(Faculty Development)** の計画
 - ・ 専門研修プログラムの改善方法
 - 4.4 専攻医の就業環境の整備機能
 - 4.5 整形外科研修の休止、中断、プログラムの移動、プログラム外研修の条件について
 - 4.6 修了要件
5. 研修スケジュール、研修ローテーション、専門研修施設、指導医
6. 専門研修プログラムを支える体制
7. 募集人数と応募方法、病院見学の申し込みについて

1. 整形外科専門研修の理念と使命

1) 理念

整形外科専門医は、国民の皆様に質の高い運動器医療を提供することが求められます。このため整形外科専門医制度は、日本整形外科学会に所属する専攻医に対して「医師として必要な臨床能力および運動器疾患全般に関する基本的・応用的・実践能力を教育し、国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献できるようにすること」を理念とします。整形外科専門医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技術の修得に日々邁進し、運動器に関わる疾患の病態を正しく把握し、高い診療実践能力を有する医師でなければなりません。

2) 使命

整形外科専門医は、生活習慣や災害、スポーツ活動によって発生する運動器疾患と障害の発生予防と診療に関する能力を備え、社会が求める最新の医療を提供し、地域住民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献する使命があります。

また、整形外科専門医は、運動器疾患全般に関して、早期診断、保存的および手術的治療ならびにリハビリテーション治療などを実行できる能力を備え、運動器疾患に関する良質かつ安全で心のこもった医療を提供する使命があります。

2. 八戸地域整形外科専門研修の目標

① 専門研修後の成果

整形外科研修プログラムを修了した専攻医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技能を修得できるような幅広い基本的な臨床能力（知識・技能・態度）が身についた整形外科専門医となることができます。また、同時に専攻医は研修期間中に以下のコアコンピテンシーも習得できます。

- 1) 患者への接し方に配慮し、患者や医療関係者とのコミュニケーション能力を磨くこと。
- 2) 自立して、誠実に、自律的に医師としての責務を果たし、周囲から信頼されること（プロフェッショナリズム）。
- 3) 診療記録の適確な記載ができること。
- 4) 医の倫理、医療安全等に配慮し、患者中心の医療を実践できること。
- 5) 臨床から学ぶことを通して基礎医学・臨床医学の知識や技術を修得すること。
- 6) チーム医療の一員として行動すること。
- 7) 後輩医師に教育・指導を行うこと。
- 8) 地域医療の重要性を十分に理解し、地域住民の健康維持向上に貢献すること。

② 到達目標（修得すべき知識・技能・態度など）

1) 専門知識

専攻医は、整形外科研修カリキュラムに沿って研修し、整形外科専門医とし

て、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を涵養します。さらに、進歩する医学の新しい知識を修得できるように、幅広く基本的、専門的知識を修得します。専門知識習得の年次毎の到達目標を整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料1に示します。

2) 専門技能（診察、検査、診断、処置、手術など）

専攻医は、整形外科研修カリキュラムに沿って研修し、整形外科専門医として、あらゆる運動器に関する幅広い基本的な専門技能（診察、検査、診断、処置、手術など）を身につけます。専門技能習得の年次毎の到達目標を整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料2に示します。

3) 学問的姿勢

臨床的な疑問点を見出して解明しようとする意欲を持ち、その解答を科学的に導き出し、論理的に正しくまとめる能力を修得することができることを一般目標とし、以下の行動目標を定めています。（リサーチマインドの養成）

- i. 経験症例から研究テーマを立案しプロトコールを作成できる。
- ii. 研究に参考となる文献を検索し、適切に引用することができる。
- iii. 結果を科学的かつ論理的にまとめ、口頭ならびに論文として報告できる。
- iv. 研究・発表媒体には個人情報を含めないように留意できる。
- v. 研究・発表に用いた個人情報を厳重に管理できる。
- vi. 統計学的検定手法を選択し、解析できる。

4) 医師としての倫理性、社会性など

整形外科研修カリキュラムの中に「医師の法的義務と職業倫理」の項を設け、一般目標として「医師が守るべき法律と医師に求められる倫理規範を理解し、遵守できる」を行動目標として以下を掲げる。

- i. 医師法等で定められた医師の義務を知っている。
- ii. 医療法の概略、特に療養担当規則を理解している。
- iii. 医療行為に関する上記以外の法律（健康保険法・薬事法など）を十分に理解し、遵守できる。
- iv. 医療倫理、医療安全の重要性を理解し実践できる。
- v. DOH (Declaration of Helsinki)、日本医師会の「医の職業倫理綱領」を知っている。
- vi. 患者やその家族と良好な信頼関係を確立することができる。

また、患者およびその家族と良好な信頼関係を築くことができるようコミュニケーション能力と協調による連携能力を身につける。さらに、医療職スタッフとのコミュニケーション能力を身につけ、関連する医療従事者と協調・協力してチーム医療を実践することができる。

3. 八戸地域整形外科専門研修プログラムの特徴

八戸市立市民病院は病床 608 床を有する八戸地域医療圏の中核病院です。八戸地域医療圏は八戸市、おいらせ町、三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村で構成され、当院では主に急性期医療を担い地域医療に貢献しております。救命救急センターを併設し、平成 21 年よりドクターヘリの運用が開始され、八戸地域医療圏を超えて青森県南部地域、岩手県北地域の重症患者を 24 時間体制で受け入れる、地域の拠点病院でもあります。

このような広い医療圏の中で整形外科として専門医療を提供することが当院整形外科医師の使命であり、当プログラムでは地域医療におけるプライマリケアから専門的な医療まで、さまざまな疾患、外傷に対応できる整形外科医を目指して研修を行います。

八戸地域整形外科専門研修プログラムは、当院を基幹病院とし 7 つの連携施設から構成されています。当院では脊椎外科、手外科、関節外科などの専門医が診療に当たっており、また腫瘍や小児整形外科に関しても連携病院から専門医の派遣があり、早い時期より専門性の高い診療を経験することが出来ます。年間約 800 例の手術を行っており、多くの手術症例を執刀、経験することにより、診断から治療まで自立した診療を行える整形外科専門医を目指します。救命救急センターを併設しているため様々な外傷、特に多発外傷患者の初期治療、手術、リハビリテーションについて研修できることも当院の特徴です。一般病院では経験できないような外傷も数多く経験することが可能です。

連携病院に弘前大学医学部附属病院があり、更に専門的な研修も出来るような体制を取っております。弘前大学医学部整形外科では脊椎外科、関節外科、スポーツ医学、手外科、腫瘍などの診療、研究グループがあり、最先端の臨床、研究まで学ぶことが可能です。八戸地域整形外科専門研修プログラムは専攻医の皆様に素晴らしい研修環境を提供し、地域医療からサブスペシャリティーによる専門的な診療まで幅広く習得することを目指します。

4. 研修方法：参照資料

整形外科専門研修プログラム整備基準及び付属資料（日本整形外科学会 HP）

<http://www.joa.or.jp/jp/edu/index.html>

4.1 基本方針：

整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って、八戸市立市民病院（基幹施設）および連携施設群において研修を行います。専門知識習得の年時毎の到達目標と専門技能修得の年時毎の到達目標は、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 1「専門知識習得の年次毎の到達目標」、資料 2「専門技能習得の年次毎の到達目標」を参照して下さい。

研修実績の記録と評価には、日本整形外科学会整形外科専門医管理システムを用います。専攻医は、各研修領域終了時および研修施設移動時に日本整形外科学会が作成したカリキュラム成績表の自己評価欄に行動目標毎の自己評価を行います。また指導医評価表で指導体制、研修環境に対する評価を行います。指導医は、専攻医が行動目標の自己評価を終えた後にカリキュラム成績表の指導医評価欄に専攻医の行動目標の達成度を評価します。また、指導医は抄読会や勉強会、カンファランスの際に専攻医に対して教育的な建設的フィードバックを行います。

研修実績と評価をもとに、専門研修最終年度の3月に研修プログラム管理委員会において、専門研修修了判定を行います。判定基準は【4.6 修了要件】に定めるとおりです。

このプログラムおよび専門研修プログラム管理委員会はサイトビジットを含む第3者の評価・指導を受けます。またその際に研修プログラム統括責任者、研修連携施設指導管理責任者、指導医ならびに専攻医は真摯に対応いたします。

4.2 研修計画

整形外科の研修で経験すべき疾患・病態は、骨、軟骨、筋、靭帯、神経などの運動器官を形成するすべての組織の疾病・外傷・加齢変性です。また新生児、小児、学童から成人、高齢者まで全ての年齢層が対象となり、その内容は多様です。この多様な疾患に対する専門技能を研修するために、整形外科専門研修は1ヶ月の研修を1単位とする単位制をとり、全カリキュラムを脊椎、上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、リハビリテーション、スポーツ、地域医療、小児、腫瘍の10の研修領域に分割し、専攻医が基幹病院および連携病院をローテーションすることで、それぞれの領域で定められた修得単位数以上を修得し、3年9ヶ月間で45単位を修得する修練プロセスで研修します。

・修得すべき領域と単位（1ヶ月1単位）の詳細は以下の通りとする。

a:脊椎	6単位
b:上肢・手	6単位
c:下肢	6単位
d:外傷	6単位
e:リウマチ	3単位
f:リハビリテーション	3単位
g:スポーツ	3単位
h:地域医療	3単位
i:小児	2単位
j:腫瘍	2単位
k:流動単位	5単位
計	45単位

① 専門知識の習得計画

本研修プログラムでは、専門知識を整形外科専門研修プログラム整備基準附属解説資料3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って研修し、知識能習得状況を6ヵ月毎に評価します（自己評価および指導医評価）。専門研修プログラム管理委員会による専攻医面接を年1回行い、評価表を参照し、知識習得に関する目標設定・取得単位調整・指導を行います。

専攻医は1年目4月中に八戸市立市民病院整形外科の指導医にて行われる講義に参加し、整形外科診療を行うための基本事項を学習します。

② 専門技能の習得計画

本研修プログラムでは、専門技能を整形外科専門研修プログラム整備基準附属解説資料3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って研修し技能能習得状況を6ヵ月毎に評価します（自己評価および指導医評価）。専門研修プログラム管理委員会による専攻医面接を年1回行い、技能習得に関する目標設定・取得単位調整・指導を行います。

専攻医の過半数が獲得できていない技能があれば、これを獲得するためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が開催します

③ 経験目標（経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等）

1) 経験すべき疾患・病態

整形外科の研修で経験すべき疾患・病態は、骨、軟骨、筋、靭帯、神経などの運動器官を形成するすべての組織の疾病・外傷・加齢変性である。また新生児、小児、学童から成人、高齢者まで全ての年齢層が対象となり、その内容は多様である。この多様な疾患・病態を整形外科専門研修プログラム整備基準附属解説資料3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って研修する。経験すべき疾患数と病態数については、資料3：整形外科専門研修カリキュラムを参照のこと。

2) 経験すべき診察・検査等

資料3「整形外科専門研修カリキュラム」に明示された経験すべき診察・検査等の行動目標に沿って研修する。尚、年次毎の到達目標は資料2：専門技能習得の年次毎の到達目標に明示する。Ⅲ診断基本手技、Ⅳ治療基本手技については4年間で5例以上経験する。

3) 経験すべき手術・処置等

資料3「整形外科専門研修カリキュラム」に明示された経験すべき手術・処置等の行動目標に沿って研修する。

本研修プログラムの基幹施設である八戸市立市民病院整形外科では研修中に必要な手術・処置の修了要件を満たすのに十分な症例を経験することができます。症例を十分に経験した上で、それぞれの連携施設において、施設での特徴を生かした症例や技能を広くより専門的に学ぶことができます。

④ プログラム全体と各施設によるカンファレンス

各研修施設の研修委員会の計画の下、症例検討・抄読会はすべての施設で行います。診療科におけるカンファレンスにより診断、病態、治療に関する理解を深めることを目指します。さらに看護師、理学療法士、作業療法士、ケースワーカーなど、他職種との合同カンファレンスを行い、多角的な視野での治療計画の作成能力、チーム医療としてコミュニケーション能力と協調性、連携能力、リーダーシップの習得を目標とします。

⑤ リサーチマインドの養成計画

専攻医が自らの症例を用いて研究した成果を弘前大学医学部整形外科において年6回開催される月例会にて発表します。さらに、青森県スポーツ医学研究会、青森県脊椎懇話会、青森県手外科研究会、青森県小児研究会など、青森県内における整形外科関連の研究会や、東北整形災害外科学会学術集会での発表も目標とします。研究指導は各施設の指導医が行います。

⑥ 学術活動に関する具体的目標とその指導体制

研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により30単位を修得する。また、専攻医が学会発表年1回以上、また論文執筆を年1本以上行えるように指導します。専門研修プログラム管理委員会は全専攻医の学会発表数および論文執筆数を年1回集計し、面接時に指導・助言します。

⑦ コアコンピテンシーの研修計画

整形外科専門医としての臨床能力（コンピテンシー）には、専門的知識・技能だけでなく、医師としての基本的診療能力（コアコンピテンシー）が重要であることから、どの領域から研修を開始しても基本的診療能力（コアコンピテンシー）を身につけさせることを重視しながら指導し、さらに専攻医評価表を用いてフィードバックをすることによって基本的診療能力（コアコンピテンシー）を早期に獲得させます。

⑧ 地域医療に関する研修計画

当院は周辺地域の7施設と連携しています。それぞれの地域において産業や地理的特徴による疾患の傾向、患者背景、医療事情などが異なります。専攻医は、複数の施設において研修を行い、それらの多様性を経験す

ることより、幅広い知識と視野、柔軟な対応力の習得と、安定した医療の提供力の獲得を目標とします。

⑨ サブスペシャリティ領域との連続性について

整形外科専門医のサブスペシャリティ領域として、脊椎脊髄外科専門医、リウマチ専門医、手外科専門医があります。本プログラムの八戸市立市民病院および連携施設にはこれらサブスペシャリティ領域の研修施設が含まれています。整形外科専門研修期間からこれらのサブスペシャリティ領域の研修を行うことができ、専攻医のサブスペシャリティ領域の専門研修や学術活動を支援します。

⑩ 臨床現場を離れた学習

関連学会・研究会において、日本整形外科学会が認定する教育研修会、各種研修セミナーで、国内外の標準的な治療および先進的・研究的治療を学習します。学術活動に関しては、専攻医が学会発表、また論文執筆を行えるように指導していきます。

本研修プログラムではすべての専攻医を対象として、他大学の講師と学内講師による知識・技能習得のための「夏の研修会」（弘前大学整形外科主催）に参加することができます（2泊3日予定）。

⑪ 自己学習

日本整形外科学会や関連学会が認定する教育講演受講、月一回開催される八戸市整形外科医会での特別講演、また院内でのWeb講習会などを活用して、より広く、より深く学習することができます。また、院内の図書室にはClinical Keyや医学中央雑誌、Medical onlineなどの文献検索システムが導入され、臨床現場において医師が必要とする様々な情報に素早くアクセス出来ます。

4.3 研修およびプログラムの評価計画

① 専攻医の評価時期と方法

専攻医および指導医は研修記録による研修実績評価を6ヵ月に1回行い、（9月末および3月末）専門研修プログラム管理委員会に提出します。

他職種（看護師、技師等）の医療従事者も含めた八戸市立市民病院および各研修施設での研修評価（態度も含めた総評）を各施設での研修終了時に行います。

専攻医は研修プログラムの取得単位、学会発表・論文執筆数、教育研修講演 受講状況を年度末に専門研修プログラム管理委員会に提出し、専門研修プログラム管理委員会で評価します。

上記の総評を専門研修プログラム管理委員会で年1回年度末に評価します。

②専門研修プログラム管理委員会の運営計画

専門研修プログラム管理委員会は、専門研修プログラム統括責任者を委員長とし、各連携施設の専門研修指導責任者を委員とします。専門研修プログラム管理委員会は、事務局を基幹施設である八戸市立市民病院に置き、専門研修プログラムと専攻医を統括的に管理するため、年に一度開催します。

3月に専攻医4年次の修了判定委員会を行います。必要時に臨時委員会を開催します。

③プログラムとしてのFD (Faculty Development) の計画

指導医は整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料12「整形外科指導医マニュアル」に従って専攻医を指導します。

指導医は厚生労働省および日本整形外科学会主催の指導医講習会等を受講して、フィードバック法を学習し、より良い専門医研修プログラムの作成に努める。

④専門研修プログラムの改善方法

専門研修プログラム管理委員会で年1回検討し、必要に応じてプログラム改定を行います。

1) 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

日本整形外科学会が作成した指導医評価表を用いて、各ローテーション終了時（指導医交代時）毎に専攻医による指導医や研修プログラムの評価を行うことにより研修プログラムの改善を継続的に行います。専攻医が指導医や研修プログラムに対する評価を行うことで不利益を被ることがないように保証します。

2) 専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス

専攻医は、各ローテーション終了時に指導医や研修プログラムの評価を行います。その評価は研修プログラム統括責任者が報告内容を匿名化して研修プログラム管理委員会に提出、研修プログラム管理委員会では研修プログラムの改善に生かすようにするとともに指導医の教育能力の向上を支援します。

3) 研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

研修プログラムに対する日本専門医機構など外部からの監査・調査に対して研修プログラム統括責任者および研修連携施設の指導管理責任者ならびに専門研修指導医及び専攻医は真摯に対応、プログラムの改良を行います。専門研修プログラム更新の際には、サイトビジットによる評価の結果と改良の方

策について日本専門医機構の整形外科研修委員会に報告します。

4.4 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

専門研修プログラム管理委員会は、専攻医に対するアンケートと面接で各施設の就業環境を調査します。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、専門研修指導責任者に文書で通達・指導します。

4.5 整形外科研修の休止、中断、プログラムの移動、プログラム外研修の条件について

傷病、妊娠、出産、育児、その他やむを得ない理由がある場合の休止期間は合計 6 ヶ月間以内とします。限度を超えたときは、原則として少なくとも不足 期間分を追加履修することとなります。疾病の場合は診断書の、妊娠・出産の場合はそれを証明するものの添付が必要です。留学、診療実績のない大学院の期間は研修期間に組み入れることはできません。また研修の休止期間が 6 ヶ月

を超えた場合には、専門医取得のための専門医試験受験が 1 年間遅れる場合もあります。専門研修プログラムの移動に際しては、移動前・後のプログラム統括責任者及び整形外科領域の研修委員会の同意が必要です。

4.6 修了要件

- ①各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること。
（専攻医獲得単位報告書（資料 9）を提出）
 - ②行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること
 - ③臨床医として十分な適性が備わっていること
 - ④研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により 30 単位を修得していること。
 - ⑤1 回以上の学会発表、また筆頭著者として 1 編以上の論文があること。
- 以上①～⑤の修了認定基準をもとに、専攻研修 4 年目の 3 月に専門研修プログラム管理委員会において修了判定を行います。

5. 研修スケジュール、研修ローテーション、専門研修施設、指導医

八戸市立市民病院では資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」にあるすべての分野を研修することができます。青森県の中核病院として、最新の設備と豊富な症例を経験しながら、専門分野ごとの症例検討や抄読会などより専門的な知識・技能を指導します。

本プログラムの連携施設は 7 施設（弘前大学医学部附属病院、はまなす医療療育センター、三沢市立三沢病院、青森労災病院、五戸総合病院、むつ総合病院、公立野辺地病院）です。

連携する 1 型基幹施設である弘前大学医学部附属病院での研修が 6 ヶ月以上必要であり、専攻研修 1 年目の 10 月には弘前大学医学部附属病院において、

リサーチマインドを学び、一般病院では経験することのできない多くの症例を経験する機会を提供します。

【八戸市立市民病院週間予定表】

	月	火	水	木	金
A.M.	X線カンファレンス 外来 手術	X線カンファレンス 外来 手術	X線カンファレンス 外来 手術	X線カンファレンス 外来 手術	X線カンファレンス 外来 手術
P.M.	手術	検査 手術	手術	検査 手術	手術
	抄読会 骨粗鬆症カンファレン ス	専攻医症例検討会		総回診 手術症例カンファレン ス	

それぞれの連携施設の研修可能分野とローテーション表と専攻医毎の年次別単位取得計画、指導医と指導分野を下表に示します。

整形外科診療の現場における研修方法の要点については付属解説資料 13「整形外科専攻医研修マニュアル」を参照して下さい。

【八戸地域整形外科専門研修プログラム 研修病院の指導可能領域と専攻医ローテーション表】

1. 研修病院群と指導可能な研修領域

a:脊椎、b:上肢・手、c:下肢、d:外傷、e:リウマチ、f:リハビリテーション、g:スポーツ、h:地域医療、i:小児、j:腫瘍

	病院名	指導可能領域										専攻医
		a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	受入可能数
1	八戸市立市民病院	○2	○	○	○2	○	○2	○		○	○	5
2	弘前大学医学部附属病院	○3	○3	○6	○3	○2	○3	○3		○3	○3	28
3	はまなす医療療育センター	○	○	○	○		○			○		2
4	三沢市立三沢病院		○		○				○			2
5	青森労災病院	○	○	○	○	○		○		○	○	6
6	五戸総合病院				○		○		○			1
7	むつ総合病院		○	○	○	○		○	○			4
8	公立野辺地病院	○			○				○			1

2. 研修病院別ローテーション表（シミュレーション）

	病院名	1年目	2年目	3年目	4年目
1	八戸市立市民病院	専攻医1-5	専攻医1-3 専攻医4-5	専攻医1-3 専攻医4-5	専攻医1-5
2	弘前大学医学部附属病院	専攻医1-5			
3	はまなす医療療育センター		専攻医2	専攻医5	
4	三沢市立三沢病院		専攻医5		専攻医3
5	青森労災病院		専攻医1	専攻医4	
6	五戸総合病院				専攻医2
7	むつ総合病院		専攻医3	専攻医1	
8	公立野辺地病院		専攻医4		

3. 専攻医別取得単位

	1年目（12単位）		2年目（12単位）		3年目（12単位）		4年目（9単位）		取得単位合計45単位の内訳
	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	
専攻医1	a3,c3	e3,j3	f3,i3	d3,g3	b3,d3	c3,h3	a3,b3,f3		a6,b6,c6,d6,e3,f6,g3,h3,i3,j3
専攻医2	a3,c3	e3,j3	b3,f3	a3,i3	c3,g3	d3,h3	b3,d3,e3		a6,b6,c6,d6,e6,f3,g3,h3,i3,j3
専攻医3	a3,c3	d3,i3	a3,g3	d3,e3	b3,f3	b3,h3	c3,g3,j3		a6,b6,c6,d6,e3,f3,g6,h3,i3,j3
専攻医4	a3,d3	f3,g3	d3,h3	b3,c3	e3,i3	b3,f3	a3,c3,j3		a6,b6,c6,d6,e3,f6,g3,h3,i3,j3
専攻医5	a3,d3	f3,g3	b3,h3	b3,j3	a3,c3	c3,e3	d3,g3,i3		a6,b6,c6,d6,e3,f3,g6,h3,i3,j3

専門研修施設群 専門研修指導医 一覧

施設名	指導医名	指導分野1	指導分野2	指導分野3
八戸市立市民病院	沼沢拓也	a	f	j
八戸市立市民病院	入江伴幸	a	d	f
八戸市立市民病院	鈴木雅博	b	d	i
八戸市立市民病院	大石裕誉	c	e	g
弘前大学医学部附属病院	石橋恭之	c	f	g
弘前大学医学部附属病院	柳澤道朗	b	c	j
弘前大学医学部附属病院	山本祐司	c	g	i
弘前大学医学部附属病院	和田簡一郎	a	d	i
弘前大学医学部附属病院	大鹿周佐	b	c	j
弘前大学医学部附属病院	上里涼子	b	d	i
弘前大学医学部附属病院	熊谷玄太郎	a	f	j
弘前大学医学部附属病院	工藤整	a	c	d
弘前大学医学部附属病院	木村由佳	c	e	g
弘前大学医学部附属病院	三浦和知	e	f	g
はまなす医療療育センター	盛島利文	a	f	i
はまなす医療療育センター	青木恵	c	d	i
三沢市立三沢病院	小川太郎	b	d	i
青森労災病院	油川修一	a	e	f
青森労災病院	岩崎弘英	b	d	e
青森労災病院	前田周吾	c	g	j
五戸総合病院	三上靖隆	b	f	h
むつ総合病院	保村昌宏	b	c	d
むつ総合病院	吉川孔明	e	h	i
公立野辺地病院	成田穂積	b	d	h

6. 専門研修プログラムを支える体制

①専門研修プログラムの管理運営体制

専門基幹施設である八戸市立市民病院においては、指導管理責任者（プログラム統括責任者を兼務）および指導医の協力により、また専門研修連携施設においては指導管理責任者および指導医の協力により専攻医の評価ができる体制を整備します。専門研修プログラムの管理には日本整形外科学会が作成した指導医評価表や専攻医評価表などを用いた双方向の評価システムにより、互いにフィードバックすることによって研修プログラムの改善を行います。

上記目的達成のために専門研修基幹施設に専門研修プログラムと専攻医を統括的に管理する整形外科専門研修プログラム管理委員会を置き、年に一度開催します。また、副プログラム統括責任者を1名置き、副プログラム統括責任者はプログラム統括責任者を補佐します。

② 基幹施設の役割

専門研修基幹施設である八戸市立市民病院は専門研修プログラムを管理し、プログラムに参加する専攻医および連携施設を統括します。

八戸市立市民病院は研修環境を整備し、専攻医が整形外科の幅広い研修領域が研修でき、研修修了時に修得すべき領域の単位をすべて修得できるような専門研修施設群を形成し、専門研修プログラム管理委員会を中心として、専攻医と連携施設を統括し、専門研修プログラム全体の管理を行います。

③ 専門研修指導医

指導医は専門研修認定施設に勤務し、整形外科専門医の資格1回以上更新し、なおかつ日本整形外科学会が開催する指導医講習会を5年に1回以上受講している整形外科専門医であり、本研修プログラムの指導医は上記の基準を満たした専門医です。

④ プログラム管理委員会の役割と権限

専門研修基幹施設である八戸市立市民病院に整形外科専門研修プログラムと整形外科専攻医を統括的に管理する整形外科専門研修プログラム管理委員会を設置する。整形外科専門研修プログラム管理委員会は、①整形外科専門研修プログラム統括責任者（基幹病院の指導管理責任者が兼務）、②研修連携施設の指導管理責任者を構成員に含まなければならない。

<整形外科専門研修プログラム管理委員会の役割・権限>

- 1) 整形外科研修プログラム管理委員会は、研修プログラムの作成や研修プログラム相互間の調整、専攻医の管理及び専攻医の採用・中断・修了の際の評価等専門医研修の実施の統括管理を行います。
- 2) 整形外科研修プログラム管理委員会は研修の評価及び認定において、必要に応じて指導医から各専攻医の研修進捗状況について情報提供を受けることにより、各専攻医の研修進捗状況を把握、評価し、修了基準に不足している部分についての研修が行えるよう、整形外科専門研修プログラム統括責任者や指導医に指導・助言する等、有効な研修が行われるよう配慮します。
- 3) 研修プログラム管理委員会は、専攻医が研修を継続することが困難であると認める場合には、当該専攻医がそれまでに受けた専門医研修に係る当該専攻医の評価を行い、管理者に対し、当該専攻医の専門医研修を中断することを勧告することができます。

- 4) 研修プログラム管理委員会は、専攻医の研修期間の終了に際し、専門医研修に関する当該専攻医の評価を行い、管理者に対し当該専攻医の評価を報告します。
- 5) 整形外科専門研修プログラム管理委員会の責任者である専門研修プログラム統括責任者が、整形外科専門研修プログラム管理委員会における評価に基づいて、専攻医の最終的な研修終了判定を行います。
- 6) 弘前大学医学部附属病院は連携施設とともに研修施設群を形成します。弘前大学医学部附属病院に置かれたプログラム統括責任者は、総括的評価を行い、修了判定を行います。また、プログラムの改善を行います。

⑤ プログラム統括責任者の役割と権限

プログラム統括責任者は、整形外科領域における十分な診療経験と教育指導能力を有し、以下の整形外科診療および整形外科研究に従事した期間、業績、研究実績を満たした整形外科医とされており、本研修プログラム統括責任者は以下の基準を満たしています。

＜プログラム統括責任者の基準＞

- 1) 整形外科専門研修指導医の基準を満たす整形外科専門医。
- 2) 医学博士号またはピアレビューを受けた英語による筆頭原著論文 3 編を有する。

＜プログラム統括責任者の役割・権限＞

- 1) 専門研修基幹施設である八戸市立市民病院における研修プログラム管理委員会の責任者であり、プログラムの作成、運営、管理を担う。
- 2) 専門研修プログラムの管理・遂行や専攻医の採用・修了判定につき最終責任を負う。

⑥ 労働環境、労働安全、勤務条件

八戸市立市民病院や各研修連携施設の病院規定によりますが、労働環境、労働安全、勤務条件等へ以下に示す配慮をします。

- 1) 研修施設の責任者は専攻医のために適切な労働環境の整備に努めます。
- 2) 研修施設の責任者は専攻医の心身の健康維持に配慮します。
- 3) 過剰な時間外勤務を命じないようにします。
- 4) 施設の給与体系を明示し、3年9ヶ月間の研修で専攻医間に大きな差が出ないように配慮します。

専攻医の勤務時間、休日、当直、給与などの勤務条件については、労働基準法を遵守し、各施設の労使協定に従います。さらに、専攻医の心身の健康維持への配慮、当直業務と夜間診療業務の区別とそれぞれに対応した適切な対価を支払うこと、バックアップ体制、適切な休養などについて、勤務開始の時点で説明を行います。

総括的評価を行う際、専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容は八戸市立市民病院事業管理者および臨床研修センターに報告されますが、そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条件につい

ての内容が含まれます。

7. 募集人数と応募方法

【専攻医受入数】 各年次 5 名 合計 20 名

【応募方法】

応募に必要な以下の書類を下記【問い合わせ先】に郵送またはメールで送って下さい。選考は面接で行います。必要書類の一部は下記ページよりダウンロードして下さい。

八戸市立市民病院ホームページ 後期研修医募集について

<http://www.hospital.hachinohe.aomori.jp/recruit/koukikensyuui>

- 必要書類 : ① 申請書 (ダウンロード)
② 履歴書
③ 医師免許証 (コピー)
④ 医師臨床研修修了登録証 (コピー)
⑤ 健康診断書

【募集期間】 2017 年 10 月 1 日～11 月 15 日

【問い合わせ先】

〒031-8555

青森県八戸市大字田向字毘沙門平 1

八戸市立市民病院 臨床研修センター 主事

担当: 田端 耕大

Tel: 0178-72-5012 Fax: 0178-72-5115

senmon-kensyu@hospital.hachinohe.aomori.jp

八戸市立市民病院ホームページ

<http://www.hospital.hachinohe.aomori.jp/>

八戸市立市民病院ホームページ 見学申し込みフォーム

<http://www.hospital.hachinohe.aomori.jp/recruit/kengaku>

【病院見学の申し込みについて】

八戸市立市民病院整形外科では随時、病院見学を受け付けております。
上記問い合わせ先にお申込み下さい